

# 虫垂癌と肛門管癌の取扱い

## V (虫垂)

注：虫垂に発生した癌腫には96ページに示すTNM分類を用いる。

## P (肛門管)：恥骨直腸筋付着部上縁より肛門縁までの管状部。

注：肛門管の癌腫には肛門管直腸部の粘膜に発生した癌腫（直腸型腺癌）と、肛門管上皮や肛門腺ないしその導管から発生した癌腫（扁平上皮癌，肛門腺癌，痔瘻癌）がある。前者は大腸癌に準じて記載し，後者には98ページに示すTNM分類を用いる。

## [附]

E (肛門周囲皮膚)：肛門縁から5cmまでの範囲の有毛皮膚（外陰部を除く）。

# 壁深達度 T4a

## 第7版

T4 : 癌が漿膜表面に露出しているか (SE) 、または直接他臓器に浸潤している (SI/AI)

T4a : 癌が漿膜表面に露出している (SE)

## 第9版

T4 : 癌が漿膜表面に接しているかまたは露出 (SE)、あるいは直接他臓器に浸潤している (SI/AI)

T4a : 癌が漿膜面に接しているか、またはこれを破って腹腔に露出している (SE)

# 肛門管の直腸型腺癌 壁深達度〔T〕

<b>TX</b>	壁深達度の評価ができない
<b>T0</b>	癌を認めない
<b>Tis</b>	癌が粘膜内にとどまる
<b>T1</b>	癌が粘膜下層までにとどまり、内括約筋に及んでいない
<b>T1a</b>	癌が粘膜下層までにとどまり、浸潤距離が1000 $\mu$ m未満である
<b>T1b</b>	癌が粘膜下層までにとどまり、浸潤距離が1000 $\mu$ m以上である
<b>T2</b>	癌が内括約筋に及ぶが、連合縦走筋までにとどまる
<b>T3</b>	癌が連合縦走筋を越えて浸潤する
<b>T4</b>	癌が肛門挙筋または隣接臓器に浸潤している

# リンパ節転移〔N〕

## 第7版

NX：リンパ節転移の程度が不明である

N0：リンパ節転移を認めない

N1：腸管傍リンパ節と中間リンパ節の転移総数が3個以下

N2：腸管傍リンパ節と中間リンパ節の転移総数が4個以上

N3：主リンパ節に転移を認める。下部直腸癌で側方リンパ節に転移を認める。

## 第9版

NX：リンパ節転移の程度が不明である

N0：リンパ節転移を認めない

N1：腸管傍リンパ節と中間リンパ節の転移総数が3個以下

N1a：転移個数が1個

N1b：転移個数が2～3個

N2：腸管傍リンパ節と中間リンパ節の転移総数が4個以上

N2a：転移個数が4～6個

N2b：転移個数が7個以上

N3：主リンパ節に転移を認める。下部直腸癌で主リンパ節および/または側方リンパ節に転移を認める

# 遠隔転移〔M〕

⑤

## 第8版

### 遠隔転移

M0：遠隔転移を認めない

M1：遠隔転移を認める

M1a：1臓器に遠隔転移を認める

M1b：2臓器以上に遠隔転移を認める

## 第9版

### 遠隔転移

M0：遠隔転移を認めない

M1：遠隔転移を認める

M1a：1臓器に遠隔転移を認める（腹膜転移は除く）

M1b：2臓器以上に遠隔転移を認める（腹膜転移は除く）

M1c：腹膜転移を認める

M1c1：腹膜転移のみを認める

M1c2：腹膜転移およびその他の遠隔転移を認める

- 卵巣転移は遠隔転移の1臓器として取扱う

# 大腸癌の進行度分類

遠隔転移		M0				M1			
						M1a	M1b	M1c	
リンパ節転移		N0	N1 N1aN1b	N2a	N2b, <b>N3</b>	Any N			
壁深達度	Tis	0							
	<b>T1a/T1b</b>	I	IIIa				IVa	IVb	IVc
	T2				IIIb				
	T3	IIa			IIIc				
	T4a	IIb							
	T4b	IIc							

## TNM-8

遠隔転移		M0				M1			
						M1a	M1b	M1c	
リンパ節転移		N0	N1 N1aN1b <b>N1c</b>	N2a	N2b	Any N			
壁深達度	Tis	0							
	T1	I	IIIA				IVA	IVB	IVC
	T2				IIIB				
	T3	IIA			IIIC				
	T4a	IIB							
	T4b	IIC							

# 側方転移の郭清度〔LD〕

LDX：側方リンパ節の郭清度が不明

LD0：側方リンパ節が郭清されていない

LD1：LD2に満たない側方リンパ節が郭清された

LD2：263D, 263P, 283が郭清された

LD3：側方の領域リンパ節が郭清された

注1：側方の領域リンパ節とは、263D, 263P, 283, 273, 293, 260, 270, 280をいう。

注2：左右の郭清度が異なる場合はそれぞれの郭清度を右は「rt-LD number」、左は「lt-LD number」の記号を付記する。

記載例)

右側は263D, 263P, 283, 273, 293, 260, 左側は263D, 263P, 283が郭清され, 270, 280も郭清された：LD2(rt-3/lt-2)

左右ともに263D, 263P, 283が郭清された：LD2

右側は263D, 263P, 283, 左側は郭清されていない：LD1 (rt-2/lt0)

注3：下部直腸癌では、中枢方向、腸軸方向のリンパ節郭清度 (D) と側方リンパ節の郭清度 (LD) を列記する。

記載例)

中枢方向、腸軸方向の郭清がD3, 側方の郭清がLD2：D3LD2

# 内視鏡治療後の癌遺残（ER）

## 第8版

ERX : HMX または VMX

ER0 : HM0 かつ VM0

ER1 : HM1, VM0 または HM0, VM1 または HM1, VM1

ER2 : 明らかな癌の遺残がある

## 第9版

RX : HMX または VMX

ER0 : HM0 かつ VM0

ER1 : HM1および/またはVM1

ER1a : HM1, VM0

ER1b : HM0, VM1 または HM1, VM1

ER2 : 明らかな癌の遺残がある

内視鏡治療の根治度〔CurE〕を廃止



# 大腸の組織型分類

## カルチノイド腫瘍、内分泌細胞癌

### 第7版

- 1 良性上皮性腫瘍
- 2 悪性上皮性腫瘍
  - 2.1 腺癌
  - 2.2 内分泌細胞癌
  - 2.3 腺扁平上皮癌
  - 2.4 扁平上皮癌
  - 2.5 その他
- 3 カルチノイド腫瘍
- 4 非上皮性腫瘍
- 5 リンパ腫
- 6 分類不能の腫瘍
- 7 転移性腫瘍
- 8 腫瘍様病変

### 第8版

- 1 良性上皮性腫瘍
- 2 悪性上皮性腫瘍
  - 2.1 腺癌
  - 2.2 扁平上皮癌
  - 2.3 腺扁平上皮癌
  - 2.4 その他
- 3 内分泌細胞腫瘍
  - 3.1 カルチノイド腫瘍
  - 3.2 内分泌細胞癌
- 4 非上皮性腫瘍
- 5 リンパ腫
- 6 分類不能の腫瘍
- 7 転移性腫瘍
- 8 腫瘍様病変
- 9 遺伝性腫瘍と消化管ポリポーシス

### 第9版

- 1 良性上皮性腫瘍
- 2 悪性上皮性腫瘍
  - 2.1 腺癌
  - 2.2 扁平上皮癌
  - 2.3 腺扁平上皮癌
  - 2.4 **カルチノイド腫瘍**
  - 2.5 **内分泌細胞癌**
  - 2.6 その他
- 3 非上皮性腫瘍
- 4 リンパ腫
- 5 分類不能の腫瘍
- 6 転移性腫瘍
- 7 腫瘍様病変
- 8 遺伝性腫瘍と消化管ポリポーシス

# リンパ管侵襲〔Ly〕 表記法の変更

## 第7版

ly0 : 侵襲を認めない

ly1 : 侵襲が軽度である

ly2 : 侵襲が中等度である

ly3 : 侵襲が高度である

## 第9版

LyX : 侵襲が不明である

Ly0 : 侵襲を認めない

Ly1 : 侵襲を認める

Ly1a : 侵襲が軽度である

Ly1b : 侵襲が中等度である

Ly1c : 侵襲が高度である

# 静脈侵襲〔V〕 表記法の変更, 肉眼所見の追加

## 第7版

v0 : 侵襲を認めない

v1 : 侵襲が軽度である

v2 : 侵襲が中等度である

v3 : 侵襲が高度である

## 第9版

VX : 侵襲が不明である

V0 : 侵襲を認めない

V1 : 組織学的に侵襲を認める

V1a : 侵襲が軽度である

V1b : 侵襲が中等度である

V1c : 侵襲が高度である

V2 : 肉眼的に侵襲を認める

# 簇出 (budding)〔BD〕 記号の変更

## 第8版

Grade 1 : 0~4個

Grade 2 : 5~9個

Grade 3 : 10個以上

## 第9版

**BDX** : 簇出が不明である

**BD1** : 0~4個

**BD2** : 5~9個

**BD3** : 10個以上

# 神経侵襲〔Pn〕 記号の変更

## 第8版

PN0 : 神経侵襲を認めない

PN1 : 神経侵襲を認める

PN1a : 神経侵襲が壁内のみが存在する

PN1b : 神経侵襲が壁外に存在する

## 第9版

**PnX** : 神経侵襲が不明である

**Pn0** : 神経侵襲を認めない

**Pn1** : 神経侵襲を認める

**Pn1a** : 神経侵襲が壁内のみが存在する

**Pn1b** : 神経侵襲が壁外に存在する